

2016

国語

注 意

1. 試験時間は、8:50～9:40の**50分**です。
2. 問題は ㊦ から ㊧ まであります。
3. 解答用紙に、受験番号と氏名を書きなさい。
4. 解答はすべて**解答用紙**に書きなさい。
5. 先生の指示があるまで、問題用紙をあけてはいけません。
6. 問題についての質問はうけつけません。
7. 試験が終わったら、解答用紙を裏返しにしておきなさい。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学二年生の「俺」は、原爆症で父を失い、広島の治療のよくない繁華街に住んでいた。「かあちゃん」はそんな街で居酒屋を出して生活を支えている。母を追って店に遊びに来るようになった「俺」を心配した「かあちゃん」は、突然「俺」を汽車に押し込み、「俺」は会ったこともない佐賀の「ばあちゃん（かあちゃんの母親）」に預けられることになった。

佐賀にやって来てからというものの、俺は年に一回、夏休みしかかあちゃんに会えなかった。

運動会にも参観日にも、かあちゃんは忙しくて来られないからだ。

でも、ある年の冬休みが近づいた日、俺ははたと気がついた。

（学校には、夏休みだけじゃなくて、冬休みも春休みもある。だったら、夏休みと同じように、俺がかあちゃんに会いに帰ればいいのだ！）
すごくいい考えだと思ひ、早速ばあちゃんに言いに行った。

「ばあちゃん、俺、今度の冬休みも広島に帰りたい」

「それは無理たい」

「なんで？」

「冬は、汽車が走つとらん」

① 俺は勢い込んだ分、ガツカリした。でも、まだ望みは残っている。

「じゃあ、春休みに帰りたい」

「それも無理たい」

「なんで？」

「春は、運転手さんは用事があると」

「そうなんか」

やっぱり、夏休みにしか広島へ行けないのには理由があったのだ。

そう思い、俺はあきらめた。

けれど一旦^{いったん}、この冬も広島へ帰れると思いきんだ気持ちは、なかなかおさまらない。

そこで俺は、広島へ続く線路だけでも見たくて、友達と汽車を見に行った。

「この線路をずーっと行くと、広島に着くつとばい」

「へーえ。この先が広島かあ」

友達も、感心しながらどこまでも続く線路を見ている。

ガタン、ゴトン、ガタン、ゴトン……。

ところがその時、線路の向こうの方から汽車がやって来たのだ。

「うわあ、汽車、走っとつとー！」

これでは、話が違う。

俺は、友達も ^aそつちのけで大急ぎで家へ帰った。

「ばあちゃん、汽車が走ってる！ 今年の冬は休みと違う！」

「まさか」

「今、見てきたもん！」

「ああ！ それは、貨物列車や」

「違う！ 手を振ったら、振り返してくれたよ」

「手え？ それは、家畜^{かちく}やろ」

ばあちゃんも俺をごまかすのに苦労したのだろうが、全く、X といつか、頭の回転の速いばあちゃんだった。

さて、会えるのは年に一度だったので、俺とかあちゃんはいつも、手紙のやりとりをしていた。

『こういうものがあるので、送ってください』そんな手紙を書くとき、必ず半分だけは叶^{かな}えられて、もう半分は叶えられない。

② そのことよって俺は、かあちゃんの大変さと愛情の両方を感じたものだった。

かあちゃんから手紙が来る時は、必ず俺宛^{あて}とばあちゃん宛の二通が一緒に届いた。

その日も、かあちゃんから二通の手紙が届いて、俺とばあちゃんは茶の間でそれを読んでいた。

「ごめんください」「はい、はい。どなた？」 玄関で声がしたので、ばあちゃんが表に出ていった。

その時、手紙は開いて置かれたままだった。

盗み読みしようなどという気は全然なかったのだが、俺は何気なくその手紙を覗き込んだ。

手紙は、『前略 昭広は元気ですか』で始まっている。

③ 最初に俺のことが書いてあったのが嬉しくて、俺は手紙を読み進んだ。

ところがその後、手紙には苦しいかあちゃんの近況が綴られ、

『……毎月五千円を送っていましたが、今月は二千円しか送れないので、お母さん、何とかお願いします』

と書かれてあったのだ。

ばあちゃんが茶の間に戻って来た時、俺は 何食わぬ顔で座っていたけれど、内心はどうしていいか分からなくなっていた。ただでさえ貧乏なのに、今月はかあちゃんが二千円しか送って来ないのだ。

c のほほんと暮らしている場合ではない、という気がしてきた。

考えた末、俺はご飯を控えることにした。

その日の夕飯になった。

おかずは相変わらず貧相で、漬け物と野菜の煮ただけだった。

おかずが少ししかないので、俺はその分、いつも白い飯を腹一杯食っていた。

茶碗は、瞬く間からっぽになった。

いつもなら、「おかわり！」と言うところなのだが、その日はそこで茶碗と箸を置いた。

おかわりしてくれようとしていたばあちゃんが、怪訝な顔になる。

「どうしたと?」

「別に。今日はもういい」

「なんで?」

「……………」

「具合でも悪かとね?」

「別に」

「おかわりして、ご飯、もう一杯食べんね?」

「もう、いい……」

うなだれている俺を見て、ばあちゃんは、はっと気づいたように言った。

「お前、手紙見たのか?」

「うん……」

その時、俺を見たばあちゃんの顔は、今でも胸の奥に焼き付いている。

怒っているような、悲しいような、なんとも言えない顔だった。

俺は、たまたまなくなつて家を飛び出した。

土手まで行くと、それまでこらえていた涙が、一気にあふれ出してきた。

何もかもが、腹立たしくて、悔しくて、たまたまなかった。

家に帰つて④ばあちゃんと顔を合わせるのが嫌で、俺はむやみに土手を歩き続け、暗くなってから、そっと自分の部屋へ戻った。

すると、きちんと敷かれた布団の枕元に、フキンをかけたお盆が置いてある。

フキンをとると、大きなおにぎりが一つ、お皿に載っていた。

『⑤「はんくらしい、食べなさい」というばあちゃんの手紙と一緒に。』

また涙がこぼれそうになりながら、おにぎりを食べていると、ばあちゃんがガラリとふすまを開けた。

「帰つてたのか」

「うん」

ばあちゃんは、それ以上は何も言わず、おにぎりを食べる俺をじっと見ていた。

気丈な人だったので涙はこぼさなかったけれど、その時、ばあちゃんの瞳は確かに、ゆらゆらと揺れていた。

「先祖代々貧乏」と豪快に笑っていたばあちゃんが⑥初めて見せた涙だった。

『佐賀のがばいばあちゃん』島田洋七の文章による

(注1) 怪訝…不思議で納得がいかないこと。

(注2) 気丈…ところが強いさま。

問一 波線部 a～c の意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選んで記号で答えなさい。

a そっちのけで

- ア のけものにして
イ ほったらかして
ウ 気にしないで
エ せきたてながら
オ 何も説明せずに

b 何食わぬ顔

- ア 十分に満足だという顔
イ 元気がないと見える顔
ウ 裏切られたという顔
エ 何も信じられない顔
オ 知らないふりをした顔

c のほほんと

- ア 明るく前向きに
イ 何もせずのんきに
ウ 無理をしてゆつくりと
エ ぼんやりと無神経に
オ 考えもなく無気力に

問二 傍線部①「俺は勢い込んだ分、ガツカリした」とありますが、このとき「俺」がどういう気持ちだったかを説明しなさい。

問三 「ばあちゃん」が「俺」を「まかそうとしたのはなぜだと考えられますか、本文全体から読みとって、不適当なものを一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 忙しく働く「かあちゃん」の邪魔になると思ったから。
- イ 往復の汽车租赁を出してやるのが困難だと思ったから。
- ウ 貧乏なので手伝いをしてもらえなくなると困るから。
- エ 繁華街で一人留守を過ごすのがよくないと思ったから。
- オ 何度も広島に行く帰ってこなくなると心配したから。

問四 空欄

X

 に入るものとして、最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 七転び八起き
- イ 口八丁手八丁
- ウ 手も足も出ない
- エ ああ言えばこう言う
- オ 目から鱗うろこが落ちる

問五 傍線部②「そのことによつて俺は、かあちゃんの大変さと愛情の両方を感じたものだった」とありますが、「かあちゃん」の「大変さ」と「愛情」をそれぞれどんなことから感じているか、説明しなさい。

問六 傍線部③「最初に俺のことが書いてあったのが嬉しくて」について、「ばあちゃん」あての手紙の最初に、自分のことが書いてあるとなぜ嬉しいのですか。三十字以内で答えなさい。

問七 傍線部④「ばあちゃんと顔を合わせるのが嫌で」とあるが、それはなぜですか。最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 自分に何も教えてくれないばあちゃんに反感を感じたから。
- イ こんな思いままでしてばあちゃんの家になくなかったから。
- ウ 何もかも知られてばあちゃんの顔を見るのがつらかったから。
- エ 盗み読みをしたことを責められているようで後悔したから。
- オ お金が足りずもうここに置けないと言われそうだったから。

問八 傍線部⑤「ごはんくらい、食べなさい」と言う「ばあちゃん」は何を言いたかったのか、最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア ご飯はたくさんあるので心配は要らないということ。
- イ ふてくされていけないで機嫌きげんを直しなさいということ。
- ウ 身体を大事にしないと母親を心配させるということ。
- エ 余計な心配をして気をつかう必要はないということ。
- オ 食事をしないで心配をかけてはいけないということ。

問九 傍線部⑥「初めて見せた涙だった」とあるが、この時の「ばあちゃん」の気持ちとして最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 母親と同じように何でも打ち明けてもらえないのが悲しい。
- イ 自分に出来る精一杯のことをしようとする孫がいじらしい。
- ウ お腹が空いたまま今まで歩き回っていたのがかわいそうだ。
- エ こんな思いをさせてしまうのなら預からなければよかった。
- オ 貧乏は気にならないが孫に理解されないのは耐えられない。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

宮沢賢治の詩「雨ニモマケズ」を知っている人は、多いでしょう。この詩の中に、「北ニケンクワヤソシヨウガアレバ ツマラナイカラヤメロトイヒ」という一節があります。賢治は、自分を犠牲にしても人々のために尽くすことを理想としていました。そんな賢治が、争いごとを嫌い、人々のけんかや訴訟をやめさせるような人になりたかったのは、よくわかります。①それはそれで、立派な考え方です。

しかし、②けんかと訴訟（つまり裁判）をいっしょにするのは、私はあまり賛成できません。けんかと訴訟とは、どちらも争いごとには違いありませんが、その目的も方法もずいぶん違います。けんかとは、力で争いを解決しようとすることです。だから力の強い人がけんかに勝ちます。それに対して、裁判は、論争と証拠によって争いを解決する方法です。だから、良い裁判では、事実に基づいて理屈の通った言い分を主張した人が勝つはずで、もちろん、裁判で負けたのにどうしても従わない人に対しては、国の力を使って強制的に裁判の結論に従わせなければなりません。しかし、それも法律が決めた手順に従って行われることで、勝った人が直接に実力行使をしてよいわけではありません。A、裁判という方法は、けんか的一种というよりも、③けんかを避けるための知恵というべきものです。

④裁判は、いくつかの役割を持っています。誰の立場から見ると、裁判の役割は違って見えるでしょう。まず、裁判を起こす人の立場から見ると、裁判は、人が自分の主張を実現するための手段の一つです。たとえば、山田さんが自分のものだと思っている土地に、加藤さんが勝手に建物を建てたとします。この場合、山田さんは加藤さんを相手に裁判を起こして、建物をどけるように裁判所から命令してもらおうように求めることができます。

⑤人が自分の主張を実現するためには、裁判のほかにもいろいろな手段があります。右の例でいえば、山田さんは、加藤さんにかけて、建物をどけるように要求するかもしれません。加藤さんが山田さんの要求をのんでくれれば、ことは無事に収まります。これは、交渉による主張の実現です。

しかし、加藤さんも自分が買った土地だから、山田さんから文句を言われる筋合いはないと、主張するかもしれません。皆さんは、土地は山田さんか加藤さんどちらか一方のもののはずだから、二人の間でそんなふうにはおかしいと、考えるかもしれません。じっさい、二人のうちのどちらかが嘘を言っているのかもしれない。でもその場合でも、双方が譲らずに言い分を主張し合う限り、ことは収まりません。しかも、じっさいの世の中では、⑥どちらも嘘をついているわけではないのに、山田さんと加藤さんのように言い分が対立する場合がたくさんあるのです。B、この土地は山田さんが前の所有者から買った土地であるのに、その所有者が亡くなったあとで、

事情を知らない家族が、土地を相続したつもりで加藤さんに売ってしまったのかもしれませんが。あるいは、加藤さんがこの隣の土地を買った時に、土地の境界がはっきりしていなかったために、問題の土地まで買ったつもりだったのかもしれませんが。このような場合は、山田さんも加藤さんも、嘘を言っているわけではないので、それぞれに一応の言い分はあるのです。

このようにして話し合いがつかない場合、山田さんは、友達に応援を頼んで、力づくで加藤さんの建物を壊してもよいでしょうか。じつさい世の中には、暴力団に頼んで、相手を脅かして、自分の言い分を通そうとする人もいます。しかし、そんなことをされては、困ります。加藤さんにも、お金を出して買った土地だという言い分があるのです。それなのに、山田さんが力づくで主張を実現してもよいとなれば、暴力をふるう人の言い分がいつでも通ってしまうことになります。

⑦ 私たちは、裁判というしくみを作りました。裁判では、山田さんの言い分が正当かどうかを判断します。もし山田さんの言い分が正当と認められれば、裁判所は、加藤さんに建物をどけて土地を明け渡すように命令する判決をします。もし、それでも加藤さんが従わない場合には、強制執行といって、有無を言わずに建物を取り壊す手続きまで用意されています。

ある人の利益になる主張が、法律によって裏付けられているとき、その人には権利があるといえます。裁判は、このような法律で裏付けられた利益、つまり権利を実現しようとする人にとって、だじな手段となります。自分の権利が侵されていると考える人は、裁判を通じてその権利を主張し、実現することができます。このように、裁判は私たちの権利を守る働きをします。

『わたしたちと裁判』後藤 昭の文章による)

問一 空欄 A C に入るのにふさわしい言葉を次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

ア そこで イ しかし ウ また エ たとえば オ つまり

問二 二重傍線部「もちろん」は、どこにかかりますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 負けたのに イ 従わない ウ 対しては エ 使って オ 従わせなければならない カ あります

問三 傍線部①「それはそれで、立派な考え方です」とは宮澤賢治のどんな考えを評価していますか、最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 宮澤賢治の「雨ニモマケズ」の詩に書かれた通り生きる考え方。
- イ 宮澤賢治の自分を犠牲にすると人々に尽くすことになるという考え方。
- ウ 宮澤賢治の人と人が争いごとをしないことを望む考え方。
- エ 宮澤賢治のけんかや訴訟を絶対行っってはいけないという考え方。
- オ 宮澤賢治の裁判で物事は解決しないと考える考え方。

問四 傍線部②「けんかと訴訟」の違いを本文中の言葉を使って、けんかは二十字以上三十字以内、訴訟は四十字以上五十字以内で、それぞれ答えなさい。

問五 傍線部③の裁判が「けんかを避けるための知恵」と言える根拠として最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 裁判の当事者同士に自分の言い分ばかりを主張させないところ。
- イ 裁判の判決に従わない人には、強制執行して有無を言わせないところ。
- ウ どちらかの言い分の嘘を見破り、暴力をふるわせないところ。
- エ 相手を脅かしての力づくで自分の言い分を通させないところ。
- オ 自分の主張を通すために友だちや暴力団に応援を頼ませないところ。

問六 傍線部④「裁判は、いくつかの役割を持っています」とありますが、本文中から役割を二つ、それぞれ十字以内で抜き出さないさい。

問七 傍線部⑤「人が自分の主張を実現するためには、裁判のほかにもいろいろな手段があります」とありますが、裁判以外の手段のうちで、(i)けんかと同じようなものを本文中の言葉四字、(ii)けんかとは言えないものを本文中の言葉二字で、それぞれ抜き出さないさい。

問八 傍線部⑥「どちらも嘘をついているわけではないのに、山田さんと加藤さんのように言い分が対立する場合」はどするとよいと筆者は言っていますか。本文中の言葉を使って三十字以内で答えなさい。

問九 傍線部⑦「私たちは、裁判というしくみを作りました」とあるが、その理由を書いた次の文の空欄 a～d に入るふさわしい言葉本文中からそれぞれ二字の言葉を見つけ、答えなさい。

a でなく、裁判で b に裏付けられた c を d させるため

問十 本文の内容にあてはまるものとして最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア けんかや訴訟に対する宮澤賢治の考え方は現代には合わないので、裁判を利用するべきである。
- イ 裁判の結果に従わない人に対して国が強制的に従わせるので、安心して裁判に任せるべきだ。
- ウ 裁判によって争いごとを解決しないと必ずけんかになるから、どんな争いも裁判を行うべきだ。
- エ 土地をめぐる争いの解決は難しくよく裁判が行われるので、裁判で自分の権利を主張するべきだ。
- オ どの人の利益も裁判によって守られるので、自分の利益が侵される場合には訴訟を行うべきである。

三 次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- ① 試験ではヤサしい問題から解きましょう。
- ② イヨウな光景を目にする。
- ③ 汽車がケイテキを鳴らして通り過ぎた。
- ④ ジョウセキ通りに戦う。
- ⑤ 係分担をサツシンする。

注意
一字制限の問題では、句読点も一字として数えます。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------

④	①	問十	問九	問 八		問 七		問 六		問五	問 四				問三	問二	問一	問九	問八	問七	問 六		問 五		問四	問三	問二	問一	
	し い		a			ii	i	役割	役割		訴 訟		けんか				A						愛情		大変さ				a
⑤		②		b												B												b	
		③															C												c
				c																									
			d																										

受 験 番 号	フリガナ	氏 名

得 点	
-----	--